

# RW 標準化推進センターの DVD-RW/DVD-R 普及活動

## Promotional Activities of DVD-RW/DVD-R by the RW Coordination Center

森下 正巳

Masami Morishita

**要 旨** パイオニアがフォーマット提案した DVD-RW/DVD-R 関連商品の普及促進をミッションとする、RWPPI (RW Products Promotion Initiative) の事務局を担当する RW 標準化推進センター。世界各地でのショーへの出展・カンファレンス・ラウンドロビンテスト・定期ミーティングなど、延べ 100 回ものアクティビティを実施、さらには社内での関連情報・問題の調整・収集・提供の窓口としての機能も含め、文字通り DVD-RW/DVD-R のデファクトスタンダード化に邁進する RW 標準化推進センターの具体的な活動内容を紹介する。

**Summary** The mission of RWPPI (RW Products Promotion Initiative) is to promote products related to the DVD-RW / DVD-R recording formats proposed by Pioneer. Day-to-day operations are handled by the staff in the HBG, RW Coordination Center (referred to as “RWCC” hereunder). RWPPI has undertaken over 100 activities, exhibiting at worldwide exhibition shows, holding press conferences, conducting Round Robin Tests, and arranging General Meetings periodically. Such activities are internally beneficial to Pioneer as well, where RWCC acts as a window to gather and offer various information within the industry, coordinating to resolve common problems with RWPPI member companies, etc... all to serve in establishing DVD-RW / DVD-R as a defacto standard. Detailed activities of the RWCC are introduced herewith.

キーワード : DVD-RW, DVD-R, RWPPI,

### 1. 背景

2000 年 5 月 9 日、当時の当社の故杉本昌穂副社長を代表とする DVD-RW/DVD-R 関連商品の全世界的な普及をミッションとした RWPPI (RW Products Promotion Initiative) が、正式に発足した(現在の代表は当社の相澤宏紀顧問)。

パイオニアが創業以来初のフォーマット提案である DVD-RW/DVD-R システムの、他フォーマットに先駆けての本格的な普及活動のスタートである。以来、当初 13 社であった会員会社数は 2006 年 5 月現在 62 社までに拡大、世界各地のショーでブースを設けての DVD-RW/DVD-R のアピールをはじめ、カンファレンス・セミナーでの情報発信、互換性向上のためのラウンドロビンテスト、定期ミーティングでの各種情報交換等々、延べ約 100 回ものアクティビティを実施して来た。

RW 標準化推進センター：RW Coordination Center、以下 RWCC は、この RWPPI 活動の母体ともいえる事務局を運営、DVD-RW/DVD-R に関する社内外への情報発信の総本山の役割を担っている。

ハードがスーパーマルチ化された現在、今さら DVD-RW のアピールをしてどうなるとの見方もあるが、スーパーマルチであっても実際に常用するメディアは 1 もしくは 2 種類であるので、ユーザーには DVD-RW と DVD-R を安心して使って欲しい。そのためには販売店・ユーザーへ正確な知識を啓蒙する必要があり、さらには増加するハードやメディアの組み合わせによる互換性・信頼性の確保・向上は必須である。この意味で地味ではあるが継続的な活動が今後必要であると考えている。

ここでは RWPPI での業界活動を中心に、RWCC の機能について紹介をする。

## 2. RW 標準化推進センターの紹介

### 2.1 ミッション・組織

DVD-RW/DVD-R 関連商品の普及促進のための母体組織である、RWPPI の事務局を担当する。また社内においては、DVD-RW/DVD-R 関連事項の調整・窓口・情報提供・収集機能を有する。現在、所長 (RWPPI 事務局長兼務) の小川雅弥以下、森下正巳、斉藤浩明、磯貝千恵子、染野木綿子の合計 5 名で構成。

2.2 RWPPI 事務局機能ルーチン業務としての 2 ヶ月に 1 回の定期ミーティングの準備・開催を始めとして、各種ショー (北米・欧州・日本・中国・トルコなど) への出展、ラウンドロビンテストの運営、プレスカンファレンス・セミナーの実施、rwppi.com の運営、会員満足度調査の実施、日本電子技術産業協会 (以下 JEITA) ・日本記録メディア工業会 (以下 JRIA) ・台湾記録メディア工業会 (以下 TRIA) との連携など、RWPPI の運営全般を担当している。なお、詳細は 3 章の RWPPI 活動の実際で述べる。

### 2.3 社内への業界情報・メディア市場情報の提供

外部調査会社からの業界情報を社内イントラネットを通じて関係者へ定期的な広報を実施している。ハードとメディアは両輪とよく言われるが、メディア生産事業から撤退した当社にとってはメディア関連の情報はどうしても薄くなりがちである。RWCC ではこの溝を埋めるべく、メディア関連のデータを定期的に社内関係者へ提供するとともに、必要に応じて関連メディアメーカーより情報収集を行い、当該部署へフィードバックをしている。

社内へのデータの提供サービスは以下の 2 種類がある。

- ・記録型 DVD 国内実売データ (G F K) : DVD-RW, DVD-R, RAM, +RW, +R の実売データ
- ・BOC ニュース : 主に台湾・韓国を中心としたメディアメーカーの動向を含めた I T トレンド情報

これらの情報の更新は現在社内約 50 人に対してメールベースで発信、Notes データベースでデータを蓄積、情報の共有化を図っている。

### 2.4 DVD-RW/DVD-R に関する市場問題への対応

業界内のハードメーカー・メディアメーカーとの密接なネットワークを活かして、DVD-RW/DVD-R 関連での諸問題への対応について協議・解決を図っている。

過去、事業部からの依頼によりメディアメーカーから特定の情報を収集・フィードバックすることで、市場トラブルに対して最低限の対処で対応が可能と

なった実績や、出荷済み商品の市場トラブルの際には、メディアメーカーに対してディスクパッケージにコーションラベルの添付を依頼、ユーザーの混乱を最小限に抑えた成果がある。

現在は、DVD-RW Ver1.1 の供給問題に取り組んでいる。DVD-RW Ver1.1(x1, x1-x2) と Ver1.2(x2-x4, x2-x6) とでは記録互換がない規格となっているため、過去販売した Ver1.1 対応 DVD レコーダー (7 社合計全世界 4 百万台以上の出荷実績がある) のユーザーは、Ver1.1 が購入できないとレコーダーでの記録が不可能となってしまう。一方販売店では、価格や話題性からどうしても新規規格の Ver1.2 の販売に移行しがちであり、このままではユーザーが店頭で Ver1.1 ディスクを購入できないという事態になりかねない。海外の一部地域ではすでにユーザークレームが発生しており、今後の Ver1.1 ディスクの安定的な供給・販売が急務である。RWCC では、本件に関してすでに JEITA との情報交換を実施、今後は JRIA と共同して対処していく考えである。

## 3. RWPPI 活動の実際

### 3.1 組織

図 1 に RWPPI 組織図を示す。2006 年 7 月現在、会員会社数 62 社で組織されている。当社の相澤宏紀顧問が代表であり、副代表はシャープ (株) 技術本部千葉滋氏、会計監査は T D K (株) 執行役員鹿内雅俊氏が務めている。定期ミーティングの下にメディア WG (メディア関連メーカー)、ハード WG (ハード関連メーカー)、ラウンドロビンテスト他の各 WG を置いている。

### 3.2 具体的な活動

#### 3.2.1 DVD-RW/DVD-R に関するプロモーション

DVD-RW/DVD-R 関連商品の全世界的な普及促進を図るためのアピールの場として、世界各地でのショー (北米 : International CES, 欧州 : CeBIT Hanover, IFA Berlin, 日本 : CEATEC, 中国 : CeBIT 上海・SINOCES 青島, トルコ : CeBIT Bilisim Eurasia) での情報発信を行っている。

ブースでは、会員からの出展商品 (DVD レコーダー、プレーヤー、ライター、メディア、PC ソフト) を展示・デモを実施、さらに特別展示コーナーで、DVD-RW DL/DVD-R DL の再生デモや、RW&ROM の Hybrid ディスクの展示を行っている。

来場者への直接的なアピール方法は、メインステー

ジでのプレゼンテーションである。このプレゼンテーションは、前半はDVD-RWの互換性・使いやすさをわかりやすく説明したショートムービー「RW is the Best」を上映、後半はムービーの内容をDVDカムコーダー・レコーダー・PC・プレーヤーを使って来場者の前で実演するというものである。実際にはDVDカムコーダーで来場者の映像を撮影、そのDVD-RWディスクをDVDレコーダーで編集、PCやプレーヤーで再生し、扱いの利便性や記録・再生の互換性の高さをアピールしている。ステージデモの後の来場者アンケートの集計結果によると、ブースの展示内容、ステージデモの理解し易さは毎回高い

評価を受けている。図2にCeBIT 2006 (Hanover)でのRWPPiブースの様子を示す。

### 3.2.2 記録・再生互換性の向上のためのラウンドロビンテスト

ラウンドロビンテストとはこまどりが丸くなって餌をつつくことの意味で、参加各社が総当りで(丸く輪になったイメージ)で互換性のテストを実施することから、このように呼ばれている。

RWPPiでは、DVD Forumにて策定されるDVD-RW/DVD-Rに関する新規規格(WG-6, Chair 谷口昭史・パイオニア技術開発本部)に対応し、ディスク・

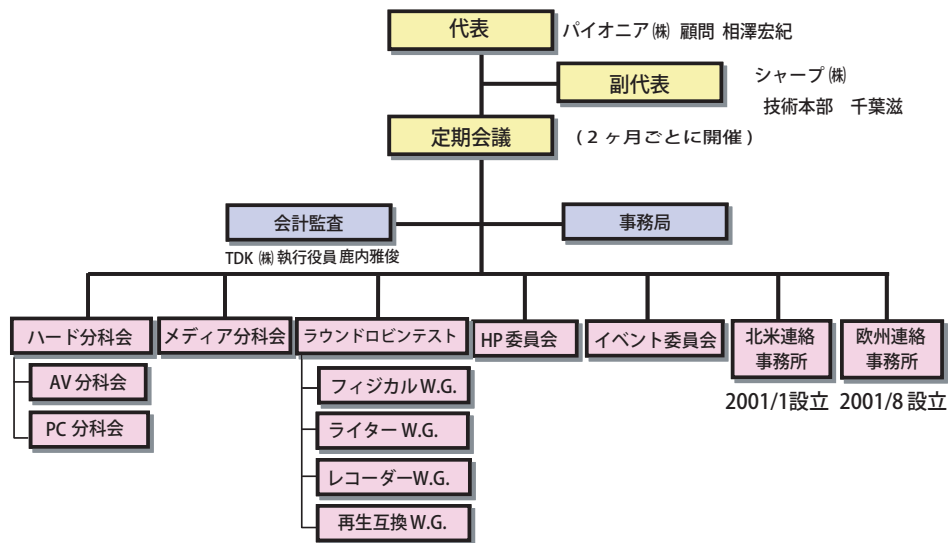


図1 RWPPiの組織



図2 CeBIT 2006 (Hanover)でのRWPPiブースの様子の写真(2006年3月)

機器・PCソフト間での記録・再生互換の検証を2002年(Stage-1:1xDVD-RW, 1xDVD-Rをテスト対象)より実施している。現在ラウンドロビンテストに参加しているメーカーは54社で、互換性検証の効率の良さや量産前にバグ取りができること、さらにはフォーマットブックの解釈の勉強会を通じてエンジニアが理解を深められるなどの点で、参加メンバーから高い評価を受けおり、実際このテストが目的でRWPPIに参加するメーカーが最近多くなってきている。

組織(2006年6月現在)としては、全体Chairを石井氏(パイオニア技術開発本部)が務め、Physical Format WG Chair:藤木氏(JVC), Co-Chair:大和田氏(ソニー), Logical Writer Format WG Chair:篠原氏(TEAC), Co-Chair:丸山氏(パイオニアCBC設計部), Logical Recorder WG Chair:川原氏(パイオニアHBGビデオ設計部), Co-Chair:元吉氏(ソニー), Playback Compatibility WG Chair:三辻氏(ソニー), Co-Chair:篠木氏(ケンウッド)で構成している。

現在Stage-5を終了、Stage-6に向けての準備中である。Stage-6では、6xDVD-RWと16xDVD-Rのレガシー機器(レコーダー、プレーヤー)・PCソフトでの記録・再生互換、8xDVD-R DLと2xDVD-RW DLが互換性検証のテスト対象となっている。なお2003年のStage-3より、記録型DVD会議(RDVDC)(\*1)との共同でテストを実施しており、RDVDCのメンバーがDVD-RW/DVD-Rのテストに参加、またRWPPIのメ

ンバーがDVD-RAMのテストにお互いに参加することが可能となっている。

RWPPIでは、互換性検証の成果をhttp://www.rwppi.comにて公表している。また成果発表会としてのセミナーを、東京、台北やニューデリーにて開催、DVD-RW/DVD-Rの互換性の高さをアピールするとともに、互換性検証の重要性を関連業界・メーカーに訴えている。

RWPPIでは、本ラウンドロビンテストを今後の活動のメインとし、今後ともDVD Forumが策定する新規規格に対応した商品の互換性検証により積極的に取り組んでいく計画である。図3にラウンドロビンテストの参加企業の推移を、また図4に2006年4月にインドで開催されたセミナーの様子を示す。

### 3.2.3 著作権・業界動向・新製品などの情報交換のための定期ミーティング

RWPPIでは、2ヶ月に1回、各種情報交換のための定期ミーティングを実施している。

著作権にまつわる各国法制化動向をはじめとし、DVD Forumでの新規規格情報、各社新製品情報、RWPPI活動報告、講師を招いての特別講演などが主なアジェンダである。会場は目黒本社が主であるが毎年12月の会議はシャープ(株)幕張事業所で開催している。ミーティングは2006年8月で第38回を数え、毎回40-50社から60-70名の出席がある。

会員に高い評価を受けている特別講演は、例えば

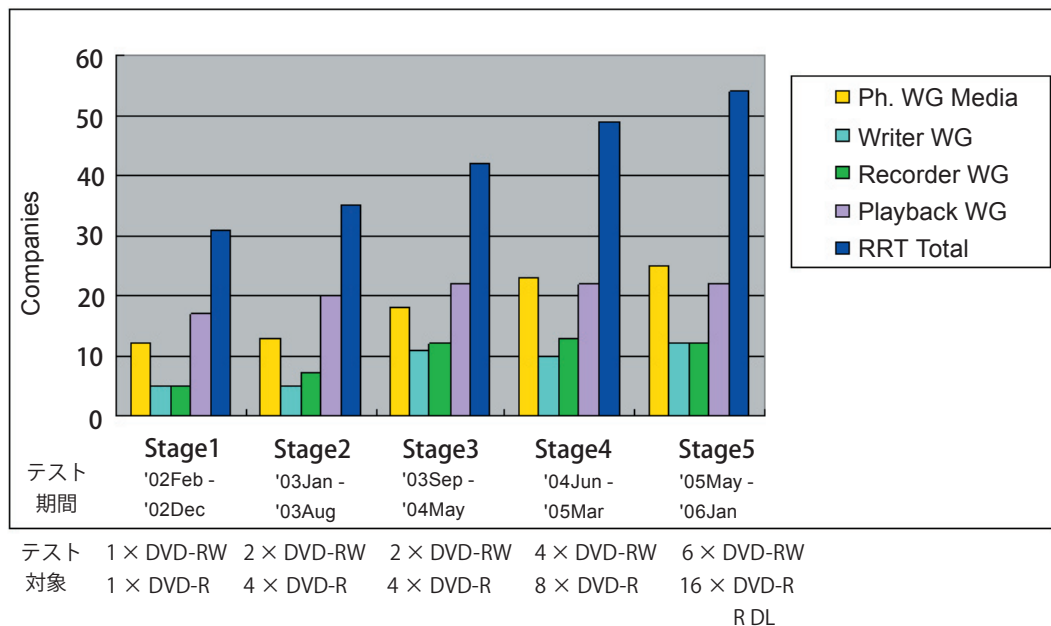


図3 ラウンドロビンテスト参加社数の推移



Seminar at Conference hall in Taj Palace Hotel

図4 インドセミナーの様子(2006年4月7日)

第35回の定期ミーティングでは、マイクロソフト社からの講師による「マイクロソフトが考えるデジタルリビング」、第38回では中島平太郎氏による「光の次は光」等々、常に時代性を考慮したトピックスを用意している。

定期ミーティングの様子は、即日(株)音元出版Phile-webにて公開される<sup>(1)</sup>。

### 3.2.3 設計基準の統一のための推奨仕様：

#### Recommended Reference と RWPPPI 専用 Web

Bookに規定されておらず、しかも商品開発に重要な事項に関しては、RWPPPIのハードWGにて原案を作成、定期ミーティングにて承認という形でRecommended Referenceを規定している。現時点で、標準記録時間2時間(片面一層4.7GBのディスクのSPモードでの記録標準時間)、RW Compatible 表示(VRモードでの記録ディスクの再生互換機能を有する表示)、Starting Track Address(ディスク製作時のトラックのスタートポイントを規定)の3つがある。

RWPPPIの活動内容・会員情報・新製品情報・DVD-RW/DVD-Rの互換性モデルリストなど、専用Webにて情報発信を行っている<sup>(2)</sup>。特にDVD-RW/DVD-Rの再生互換性モデルリストについては、ユーザーに対する再生互換情報を業界に先駆けて公表、現在18社648モデルものDVDプレーヤー・レコーダー・DVDシステム・カーDVD・ナビゲーションでの再生互換

性情報が掲載されている<sup>(3)</sup>。

### 3.2.4 JEITA, JRIA, TRIA との連携

RWPPPIでは市場で発生した問題などの対応として、JEITA, JRIAと常に連携をとりつつ対応している。特にJRIAとは事務局と定期的に情報交換をして諸問題に対応している。また台湾でのラウンドロビントのセミナーをTRIAと共同で開催。TRIAは、数多くのメディア・ハードメーカーが存在する台湾でのRWPPPIの活動をサポートいただいている。なおJRIAには、パイオニアは賛助会員として参加している(メディアを生産していないため)。

## 4. まとめ

DVD-RW/DVD-Rがほぼ全ての機器でサポートされつつある現在、今後は増加しつつあるメディアとDVD機器間での互換性が今まで以上に重要視されることから、RWCCの中心業務であるRWPPPIの運営は、先期以来プロパガンダ中心のアクティビティから、ラウンドロビントを軸にした技術検証活動にすでに舵を切っている。RWCCでは、今後とも社内関連部署の協力を得ながら活動を続けて行くが、DVD-RW/DVD-Rのフォーマット提案企業としての社会的責任もあり、社内関連部門に於いてはより一層のご理解とご協力をお願いしたい。

## 付録：DVDに関する他の団体

### 記録型 DVD 会議 (RDVDC)

DVD Multi, 特に DVD-RAM の普及促進をミッションとする団体。松下電器産業(株), (株) 日立製作所, サムスン電子(株), (株) 東芝で事務局を構成している。

### 参 考 文 献

- (1)<http://www.phileweb.com/news/d-av/200605/01/15469.html>
- (2)Web : <http://www.rwppi.com>
- (3)<http://www.rwppi.com/compati/index-j.html>

### 筆 者 紹 介

森 下 正 巳 (もりした まさみ)

HBG RW 標準化推進センター。DVD-RW/DVD-R の標準化の推進活動